

Ⅱ-人口に関する分析

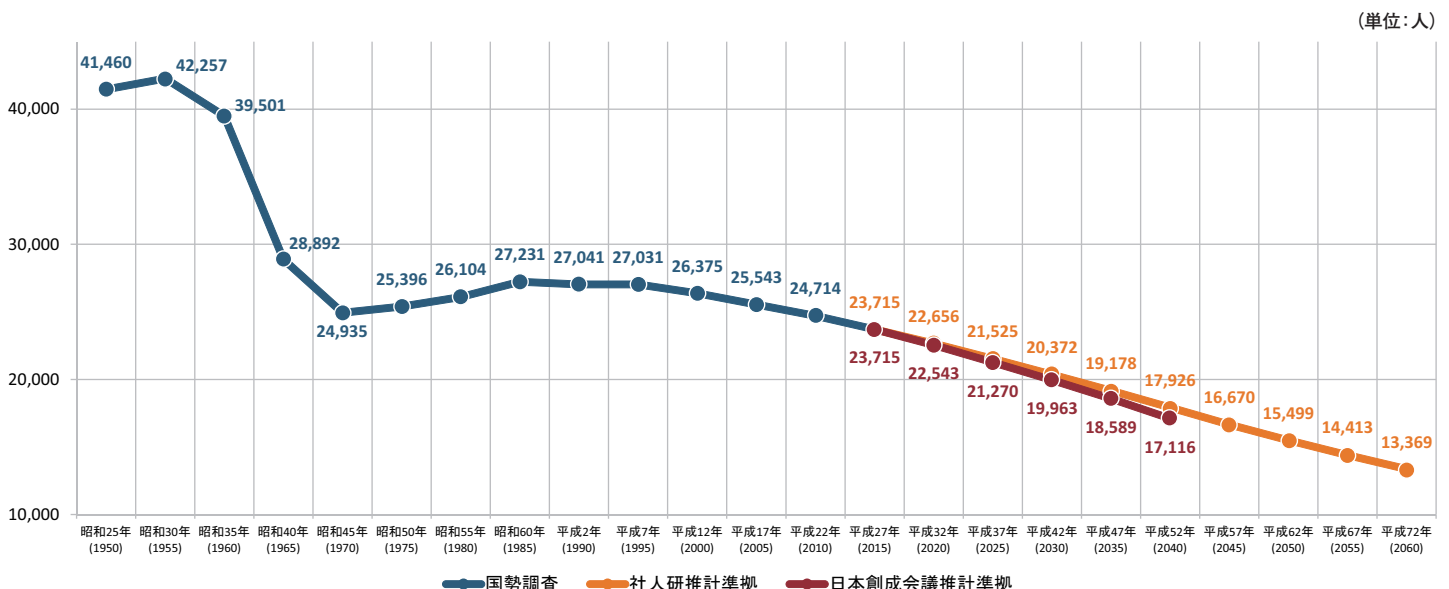
1 人口動向の分析

① 総人口の推移と将来推計

福 智町の総人口は、炭鉱最盛期であった昭和30年(1955)に、最も多い人口である42,257人を記録した。しかし、石炭から石油へのエネルギー革命により、基幹産業であった炭鉱の鉱山が相次いで閉山。これらの影響を受け労働人口が流出し、10年後の昭和40年(1965)には28,892人と激減した。▶その後、昭和45年(1970)から平成2年(1990)までは微増に転じたが、平成7年(1995)以降は、再度減少に転じ、平成22年(2010)の国勢調査では24,714人と炭鉱最盛期の半数程度の人口となった。その間、新たな基幹産業となり得る企業の誘致や新産業の創業を果たせないまま、今日に至っている。特に、完全失業率の高さは深刻な課題である。▶この厳しい状況から脱却するには、産業や雇用の創出が必要となる。しかし、大規模企業を誘致できる広大な土地などの基盤整備が困難な状況であり、加えて、財政状況が硬直し、有効な定住促進施策

を整備できない状況が続いている。さらに、定住のための主要な条件の一つである教育環境の充実においても、依然として全国平均以下の学力水準のまま推移している。したがって、通勤圏の拡大や就業・定住のサポート、学力向上をはじめとした教育環境の充実等の支援制度の整備が必要となっている。▶また、社人研が推計した本町の人口推移は、今後減少傾向が続き、平成47年(2035)には19,178人と2万人を下回り、平成52年(2040)には17,928人、平成62年(2050)には15,499人、平成72年(2060)には13,369人と予想されている。これは昭和30年の最盛期の約3分の1の人口にあたる。▶さらに、日本創成会議による推計では、より厳しい予想がなされ、平成52年(2040)には17,116人に減少し、加えて20～39歳の女性の人口が5割以上減少する、いわゆる「消滅可能性自治体」とされている。

図1 福智町の人口推移と将来人口の予想【昭和25年(1950)～平成72年(2060)】



資料：平成22年(2010)までは国勢調査
平成27年(2015)以降は社人研人口推計値

② 年齢3区分別人口の推移と将来推計

年

年齢区別に人口推移を見ると、年少人口・生産年齢人口ともに、昭和60年(1985)から減少を続け、平成7年(1995)には、老年人口が年少人口を逆転し、さらに、平成22年(2010)にはその数が2倍となっている。

▶ 将来推計では、年少人口が平成22年から30年間

で1,000人以上減少する見通しである。生産年齢人口は年平均で約200人ずつ減少。少子高齢化が進むことで、現役世代の負担がさらに増加する。

▶ 加えて、平成32年(2020)をピークに老年人口も縮小に向かい、福智町の人口減少は加速度的に進んでいく。

図2 福智町の年齢区分別人口推計【昭和60年(1985)～平成52年(2040)】

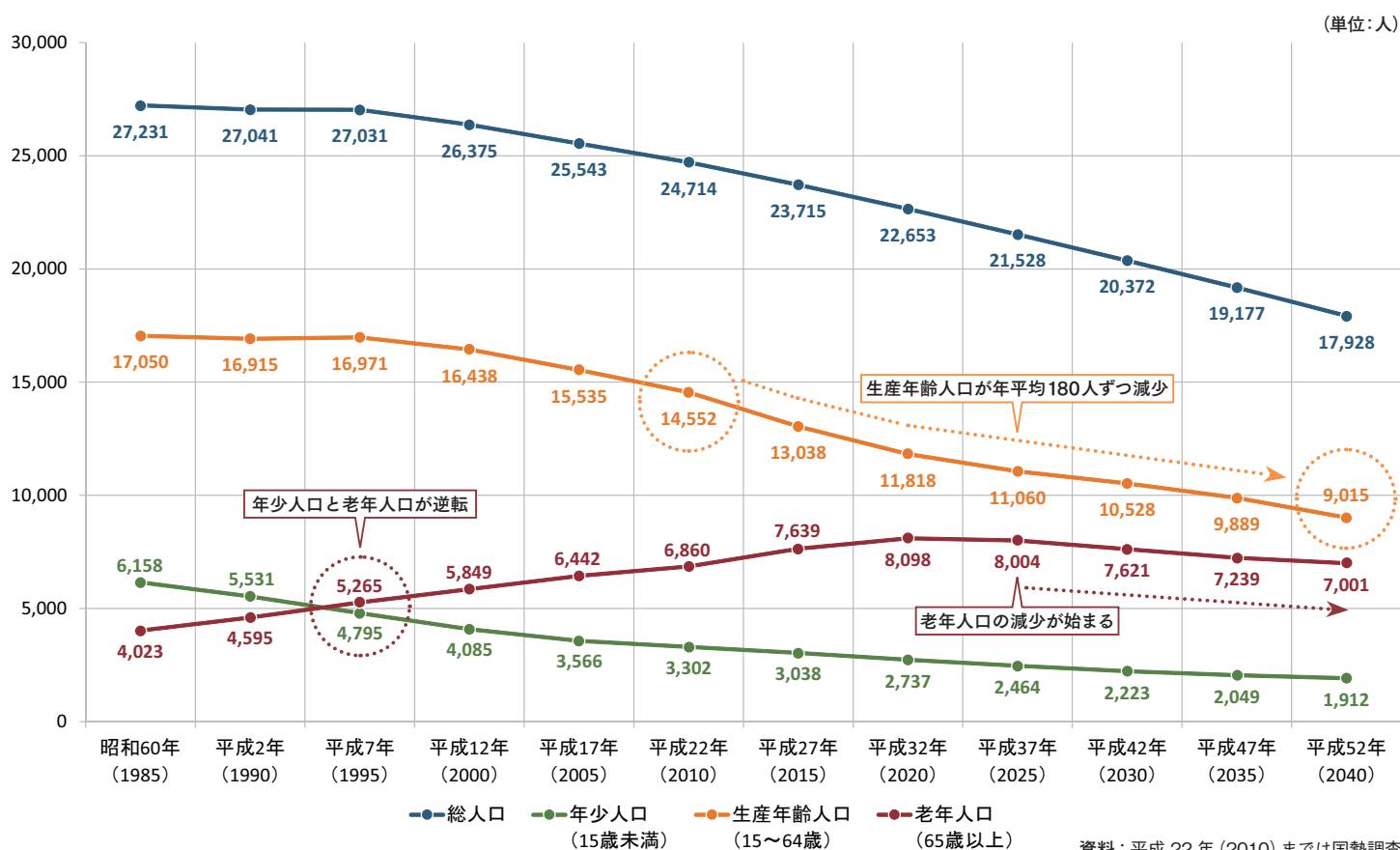
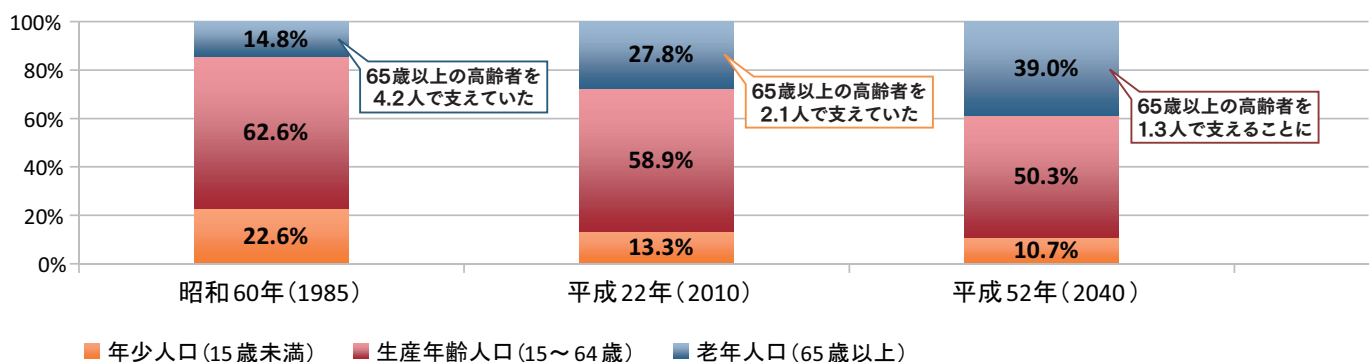


図3 年齢区分別構成割合【昭和60年(1985)～平成52年(2040)】



③ 人口ピラミッドの推移

人口ピラミッドの推移を見てみると、昭和60年(1985)には、年少人口が老年人口よりも多い「ピラミッド型」を形成しているが、平成52年

(2040)になると「逆ピラミッド型」に近い形状になることが予測され、特に女性の老年人口の割合が非常に高くなることが推定されている。

図4 福智町の人口ピラミッド推移【昭和55年(1980)、平成22年(2010)、平成52年(2040)】

(単位:人)

